

学校花壇部門

総 評

今年度はかつてない酷暑で、動植物にとって危険な暑さが続いています。その中で除草や水やり、粘り強く取り組んでいる児童や教職員の皆様、さらには地域のグリーンキーパーやボランティアの皆様のご協力を強く感じました。また、花がらつみや土壌の改善に苦心して様々な手法を試みたり、花壇の管理に工夫・努力しておられたりすることが伝わりました。

何より、花壇をデザインするに当たり、自分たちでテーマを考え、ストーリーを作り、それを目標に日々世話をしていることが伝わりました。地域の方々がちょっと立ち寄って憩う、「地域の花壇」として役立っています。花壇担当の委員会が中心になって学年の花壇として管理する一方、保護者や地域の方々の協力で改良・継続しながら、それぞれの花壇に愛着と誇りを感じ、楽しんで世話をしていることが伝わってきました。

さあ、夏はこれからが本番。夏休みの水やりをどんな形で継続していくかが課題と思われます。児童や教職員だけでは回り切れなければ地域の皆様方のお力を借りることや、簡易な灌水装置を設置するなどの思い切った決断を迫られるかもしれませんね。

最優秀賞評

昨年に続き今年も最優秀賞に選ばれた成美小学校は、50 年以上児童と保護者、地域が一丸となって「花のパノラマ構想」を展開しています。「児童主体の花壇」を支えリードする栽培委員会のメンバーは、テーマ、デザインの決定後、花苗の選定や植え込み作業、日常の世話、全校児童への放送による呼びかけなどに継続して取り組んでいます。花苗の数や花壇づくりに投入する予算の大きさは群を抜いています。今年は各学年が自分たちの干支に注目し、特性を表す花やその花の花言葉を意識して花壇づくりに努力したと言います。自分や友達を大事にする気持ちが醸成されていく自分づくりの花壇作りかと感心させられました。

(審査委員長 古市幸子)